第三章　事業

第十七条　本會ハ毎年一回総會ヲ開キ必要アルトキハ理事會ノ決議ヲ經テ臨時総會ヲ開クコトヲ得

第十八条　総會及臨時総會ニ於テハ重要事項ノ決議ヲナス

第十九条　會員ニシテ総會ニ諮リタキ事由発生シタルトキハ會員五分ノ一以上ノ同意ヲ得テ臨時総會ヲ理事會ニ請求スル事ヲ得

第廿条　本會ハ毎月一回理事會ヲ開キ必要アルトキハ臨時理事會ヲ開ク

第廿一条　理事會及臨時理事會ハ會則ノ範囲内ニ於ケル事項ノ決議ヲナス

第廿二条　常務理事ハ常務理事三名以上ノ同意ヲ得テ臨時理事會ヲ開クコトヲ得

第廿三条　理事ハ理事三分ノ一以上ノ同意ヲ得テ臨時理事會開催ヲ常務理事ニ請求スルコトヲ得此ノ場合常務理事ハ之ヲ拒ム事ヲ得ス

第廿四条　総會及理事會ニ於ケル決議ノ方法ハ過半数ヲ以テ決シ（委任状ヲ含ム）賛否同数ノ場合ハ議長之ヲ定ム

第廿五条　総會及理事會ノ議長ハ理事會ニ依リ推薦ス

第廿六条　総會ニ欠席シタルモノハ棄権者ト看做ス但シ已ムヲ得サルモノハ出席者ニ委任状ヲ託スルコトヲ得

第廿七条　本會ハ毎月一回機関紙ヲ発行ス

第廿八条　本會ハ毎月一回講話會又ハ茶話會ヲ開催ス

第廿九条　會員ニシテ本會ニ對シ功労顕著ナルモノ及企業者ノ模範トナルベキモノニ對シテハ理事會ノ決議ニ依リ賞杯又ハ謝状ヲ贈リ之ヲ表彰ス

第三十条　本會ハ適当ノ時機ニ於テ通信購買組合ヲ設ケ會員ノ共済的利益ヲ計ルモノトス

第三十一条　會員ノ禍福吉凶ハ之レヲ慶弔ス

第四章　會計

第三十二条　本會ノ収入決算ハ機関紙ニテ報告ス

第三十三条　毎月ノ剰余金ハ基本金ニ編入ス

第三十四条　本會ノ基本金ハ運記銀行預金トス

第三十五条　本會ノ基本金ハ理事會ノ決議ヲ経スシテ使用スルコトヲ得ス

第三十六条　會員ハ何時ニテモ會計帳簿及預金通帳ヲ閲覧スルコトヲ得

第五章　入退會

第三十七条　退會セントスルモノハ其旨本部ニ届出ツヘシ

第三十八条　會費滞納三ヶ月以上ニ及ブ時ハ退會者ト看做シ除名ス

附則

第三十九条　會員ハ総會ノ決議ニ服従ノ義務アルモノトス

第四十条　會員ニシテ會規ヲ紊シ會務ヲ妨ケ會ノ体面ヲ汚スモノハ戒告ヲナシ尚ホ反省セサルトキハ相当ノ制裁アルヘシ

第四十一条　本會ニ納附シタル會費ハ退會其他如何ナル理由アルモ之ヲ返戻セズ

行動

一、大正八年八月初旬都下各新聞社職工ハ革新會ナル団体ヲ組織シ同一歩調ノ下ニ所属新聞社ニ對シ数項ニ亘ル要求条件ヲ提出シタルモ容レラレズシテ同盟罷業ニ出テ紛諍数日ニ及ブモ決セズ而カモ新聞社側ノ結束亦鞏固ニシテ全部廃刊スルニ至ルモ職工側ニ屈セサルノ議ヲ決シ八月一日ヨリ四日迄東京市内ニ於ケル新聞紙ハ発刊スルモノナク通信ノ杜絶ヲ見ルニ至リシガ會社側ノ此ノ結束ニ對シテハ固ヨリ無産無資力ナル職工ノ對抗スヘクモナク遂ニ無条件就業事ニ決シ革進會ノ此ノ挙ハ全然失敗ニ了リ會其者モ亦解体ノ已ムナキニ至レリ

一、革進會ハ颶風ノ如ク来ツテ忽チ消滅シ信友会ノ如ク印刷職工ノ総テヨリ成ル組合又ハ大進會ノ如キ一工場ノ職工ニ依ル企業的組合ノ存スルアリシモ新聞社印刷職工トシテハ革進會消滅後何等組織セラルヽモノナク而モ其当時世ハ労働問題ノ渦中ニアリ学者先